平成　23　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0470800194		
法人名	（有）カナガミケアリンク		
事業所名	グループホーム　花水木		
所在地	宮城県角田市角田字中島上170-21		
自己評価作成日	平成　23年　8月　1日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	NPO法人　介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡４－２－８　テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成23年8月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

花水木の理念にも掲げている“ゆったり　楽しく　共に寄り添う生活”を日々目指しケアに臨んでいる。日課として散歩や体操等身体を動かす機会を多く取り入れ、近隣の方と顔なじみの関係や健康面でも風邪をひかない体力づくりが自然と出来ている。日々の中に季節感や刺激を感じて頂けるようお花見・温泉旅行・納涼祭・クリスマス会等企画し、入居者、家族、地域の方と共に楽しむ機会を設けている。また家族との繋がりを大切に、自宅への帰宅やお墓参り、家族団らんの一時を過ごして頂けるよう働きかけている。地域との交流として、地区の行事に積極的に参加している。入居者の方の健康管理として、主治医往診が行われており、医療との連携を図りつつ、コミュニケーションを十分に図れることで安心感が得られている。また、デイサービスも受け入れており、開かれたグループホームだと感じている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

国道349号線沿いにある角田警察署から南下すること程なく道路沿いに「グループホーム花水木」がある。「私の思いを受け入れてください」という花言葉を持つ「花水木」を入居者の心境に例え、入居者の声に耳を傾け、入居者のしたい事をしてもらい、笑顔を引き出すケアをすることが私たちの使命だと職員は語る。理念に掲げる「共に寄り添う」の具現化に向けたケアの向上に努めている。近隣の住民は、庭で育てる花は散歩する入居者に楽しんでもらうために続けたいと言う。ホームが地域の一員として受け入れられていることを示す逸話である。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名　花水木　)「ユニット名　」

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「共に寄り添うケア」を理念として掲げ、スタッフ一人一人が「寄り添う」とはどういうことか考え、それぞれの思いを話し合い、日々のケアに実践できるよう努めている。地域の一員であることも忘れず交流を図っている。	勉強会やカンファレンスの中で、実践のケアが理念に叶っているかを確かめ合っている。自己評価票は全職員が各自を振り返って記入し、管理者がまとめたものである。各自が目標を持って取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事に積極的に参加している。また花水木の行事にも参加を促し互いに交流を図っている。近隣の方にお茶を飲みに来て頂いたり、野菜作りを手助けして頂く等生活の知恵を教えて下さり関係を深めている。	地区の敬老会、新年会などの招待を受けたり、ホーム主催の夏祭りやクリスマスに近隣住民を招待する。「花水木通信」を地区で回覧し理解を得ており、住民が折り紙、歌、畑作りなどでボランティアに訪れ交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に花水木を理解して頂くために毎月回覧板に花水木通信を入れ見て頂くことで周知している。通所介護サービスを行っており地域で生活する認知症の方々の支援にも努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おおむね2ヶ月に一回会議を実施し、御家族・地域・行政の方々に参加して頂いている。日々の生活の様子や会話に至るまでちょっとした変化も報告し、参加者からの意見を頂きケアの向上の為に活かしている。	会議の機会を利用して、メンバーと入居者が輪投げなどして交流している。地域住民からは散歩での転倒を心配する発言や通信に載らなかった写真も見せて欲しいなど、活発で双方向的な会議になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂くことで助言を頂いている他、認知症についての話をして下さることで日々のケアに反映させている。制度的な事で分らない点は連絡を取り、理解できるまで説明して頂いている。	角田市は認知症モデル地区として高齢者に優しい店「オレンジマップ」の作成や「認知症のための地域づくり」講座を開催している。ホームが高齢者福祉認知症ケアの地域拠点であることを理解している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は原則として行なっていない。日中玄関の施錠は行っておらず自由に出入りできるようになっている。外出を希望される方に対して見守りを強化しており、行動を制限せずにその方の思いを尊重し外出の支援も行っている。	落ち着かない様子を察知して好きな活動に誘ったり、一緒に外出するなど、入居者一人ひとりの外出傾向を把握した対応を行なっている。近隣住民は新入居者への関心もあり、見守りの関係ができている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	同系列施設での勉強会に参加し学ぶ機会を設けている。スタッフ同士日々の言動に対し話し合い注意を図っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度を利用している方がいることでおおむね理解は出来ているが日常生活自立支援事業に関してはなじみがなくスタッフが学ぶ機会まで設けておらず今後の課題である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時解約時共に重要事項説明書に沿って一つ一つ説明し、利用者及び家族が納得するまで説明し理解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設け、重要事項説明書やホーム内に掲示している。また面会や運営推進会議の際にご意見を頂き、ケアに反映できるよう努めている。	毎月の「花水木通信」に行事や日常を写真にして生活の様子を送っている。「本人に良いことを」「仕事をさせて」などの意見を反映させた。家族が言い出し難いことも理解しており、打ち解けて話せるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の定例勉強会に代表も参加し、職員一人一人の思いを話す機会を設けている。また業務について見直し、ケアプランの重要性を統一してプロのケアを目指している。	会議の他に申送ノートで提言することもあり、レクリェーションやケアの仕方など全般で職員の能力やアイデアを活かし、積極的に取り入れている。業務の流れを示すマニュアルについて職員の意見を反映させて見直した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与については職員の業務内容を見ていると介護業界の現状の厳しさについて考えさせられる。介護の質を皆で上げることで認められ、給与水準が上がることを望んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のモチベーションを上げるために、一人一人の能力・特性を把握し、それぞれに合った研修や勉強の機会を設け積極的に勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームで音楽療法などのボランティア活動を週に1～2回行っている。目に入る事、耳にする事を職員にも伝えながら当グループホームのあり方を考えている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人のバッググランドを事前にご家族より伺いそれを参考にしながら本人より会話を通して情報収集し不安や要望を知り、その人にとって安心できる一番よい方法を見出しケアに繋げられるよう関係性を築いている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人とは別に話し合いの場を設け、ご家族の思いを伺うようにしている。ご家族の思いも踏まえ、その人にとって大切なことを話し合いケアに活かせるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その人にとって今一番必要となるサービスは何かを見極め、同系列の施設も視野に入れ連携を図り対応している。待機者リストを作成し本当に必要となるサービスが提供できるのか全員で話し合うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の全てにおいて生活の知恵を入居者それぞれから教えて頂き、日々の生活の中で発揮できるよう支援している。残存能力を活かすと共に失われた能力も引き出すことで取り戻して頂けるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や行事の際に状態を報告しながら家庭ではどのような状態だったのか情報を頂きケアに活かしている。本人と家族の大切な時間を過ごして頂くために本人の思いを尊重し自宅に帰る等、随時家族と相談しよりよい方法を考えるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽に面会に来て頂けるよう家族を通してお願いしている。又これまでの人間関係や地域性も把握するよう努め、家族と一緒に馴染みの場所に出向いたり、知人に会えるよう、家族の協力を頂き支援している。	入居前からの特技（ハーモニカ演奏）を披露する機会を設けたり、事務処理の力を活かし算盤計算を手伝ってもらうなど、持てる力を継続して発揮できるよう支援している。手紙・電話などで家族関係の継続も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの居場所や居心地の良い場所を把握するよう努めている。交友関係のある方同士居室の生き来が出来るよう支援したり、会話がスムーズに図れるようスタッフ一人ひとり工夫している。意思疎通が困難な方へはスタッフがさりげなく仲介に入り関係性を築いている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用を終了しても会いに行く機会をつくったり、家族と連絡を取り合う等これまで築いてきた関係を保つことができている。また、地域ぐるみでのお付き合いになり、これまでのように野菜のお裾分けを頂いたり、お話をしたりとお付き合いが続いている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中から一人ひとりの思いや希望を引き出せるよう会話を図っている他、言葉に表せない行動として表現されているものを察し、受け止めるよう努めている。ケアカンファレンスを通し入居者一人ひとりを見つめ様々な視点をもってスタッフそれぞれが意見を出し合い、本人本位について考えている。	会話や行動から変化を察知し、その要因となる入居者の思いを引き出し把握している。入居者の本意を大切にして対応している。家族から入居者の嫌いな物や頑固な性格など意外な一面を聞くこともある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人から情報収集するだけではなく家族からバッググランド、性格等の情報を頂き、その人らしさが保たれるようケアに活かしている。スタッフ全員で把握できるよう記録に残し、情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	行動の裏にある思いを考えるよう努め、その都度何を求めているのかスタッフ同士で話し合い本人と関わるよう努めている。様々な角度から見る事で心身の変化を受けとめ、小さな事でも気付きを大切にスタッフ間で共有し把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ケアワークシートを用いて入居者の変化について気付きを記し、それを活用しながらケアカンファレンスを行い計画の見直しに役立てるようにしている。スタッフのみならず家族の協力を頂き本人にとって「一番大切な事」を見極めるよう努力している。	入居者一人ひとりに合わせた「その人のための計画」が重要と考えて計画作成をしている。チームで「その人にとって一番大切なこと」を話し合い、家族・医師の意見も盛り込み、成果を確認しながら作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中での気付きやありのままの言動を個別記録に残している。また疑問や改善に向けての工夫を申し送りノートやケアワークシートに記しスタッフ一人ひとりの意見を交換し合い、より良いケア方法を見出しケアに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々変化する事は当然であり、対応はマニュアルにとらわれず工夫するよう努めている。本人の希望や行動に応じて気分転換も図れるよう配慮し、思いを尊重し本人が満足して頂けるようケアしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に積極的に参加している。月に1回折り紙ボランティアさん来所。又定期的にフラダンスボランティアさん来所し交流を図っている。隣接する金上社員寮の方の協力を得て消防訓練を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居にあたり花水木の協力機関へ家族同意の下主治医を変更して頂き、緊急時も適切な処置を受けられている。月1回往診に来て頂き利用者の状態や特変等随時相談し適切な判断を頂いている。	ホームが提携する病院をかかりつけ医とし、毎月の往診で助言を受けている。「往診連絡帳」にてバイタル、排便、食事などの状況を記入し、医師からの指示などが記録される。受診後は家族へ報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフの気付きや目に見える変化を受診連絡ノートに記入し協力医療機関のDr、Nsに相談し受信や治療がスムーズに行えるよう指示を頂いている。往診の際には担当Nsより助言・指導頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、家族・担当Dr・Ns・相談員との情報交換を行い状態の把握に努めている。また本人の安心の為に面会に出向きコミュニケーションを図っている。混乱や戸惑いが出ないよう早期退院に向け病院側で配慮して下さっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の思いを第一に考え本人の希望を優先している。医療的な処置が必要な場合は病院での対応になる事を説明している他、重度化の場合は今後起こり得るリスクの説明も含め本人・家族への理解を頂いている。成文化はまだできていない。	入居時や変化があったときに、ホームでできることや重度化におけるリスクの説明などを行ってきた。前回の外部評価後に「方針・確認書の成文化」することを目標達成計画に掲げたが実施に至らなかったのは残念である。	重度化は入居者にとって日常の延長上にあることを理解されたい。入居者・家族の意向を受け止め、ホームの方針を示すことで、重度化への不安が軽減されることもある。文書化で「その思い」を共有していただきたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	同系列の施設や病院で勉強会・研修会が開かれることもあるがホーム内での定期的な活動はない。重度化してきている現状もあるため急変時や事故に備えてスタッフ一人ひとりのスキルアップのため協力医療機関への協力も得て知識をみにつけていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを常に確認し、スタッフ全員の認識を高め行動できるよう訓練を行っている。昨年自動通報装置・火災報知機・スプリンクラーを設置し本人、家族も含め説明している。夜間の一人体制の夜勤の為、緊急時社員寮の協力が得られるよう理解頂いている。震災を経験したことで実践から身に付いた事も多く得られている。	訓練によって自動通報装置より非常ベルのほうが近隣への周知が早いのが分かった。5名の住民には入居者の誘導や見守りを担ってもらった。状況により夜勤の2人体制、備蓄の増量などで安全を確保している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩としての尊厳の気持ちを持ってケアに臨んでいる。馴れ合いの関係やプロ意識に欠ける事のないようスタッフ一人ひとりが指摘しあい注意を図っている。	入居者一人ひとりの背景にある人生を大切にして、慣れ合いがないように気をつけている。化粧、洋服を選ぶ、活動に励むなど自己達成が実感できるよう支援している。調理の下拵えなどで持てる力を引き出している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりとの関わりを大切にしており、主役になって話したり、活躍できる空間づくりに努めている。小さな事でも時間をかけ満足感を感じて頂けるようにケアしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の思うように行動して頂くことを大切にしており、スタッフの都合に合わせるのではなく入居者一人ひとりの都合に合わせ柔軟な対応をとっている。個々に異なったペースや言葉掛けの対応にも工夫している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みの服を選び、季節感のあるおしゃれを楽しむことができるようお手伝いさせて頂いている。これまで通りの身だしなみを忘れる事のないようお化粧する事や髭剃り等の支援も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや昔ながらの食事に配慮し献立を作成している。買い物から季節感を味わえる食材を選ぶことを手伝って頂く他、調理・片付けに至るまで一人ひとりが役割を持ち、お互い尊重しながら楽しんで行って下さっている。	地域伝統の「おくずかけ」や「おはぎ」など入居者に教わる、食器に草花を添える、畑から収穫するなど食を楽しんでいる。刻みや代替食もある。栄養士から栄養バランスを考えた献立のたて方など助言をもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に配慮し刻み食や柔らかい物で対応しているケースもある。食べる量は個別に体調に配慮し見極めながら配膳している。水分はその日の気温や個々の摂取量を把握した上でこまめに摂って頂くよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日毎食後歯磨きを実施している。食事する上で長くお付き合いする歯を大切にしようという意識の高い入居者もおり、食べたら磨く習慣が整っている。ブラッシングが不十分な方へは介助も行っている。義歯使用者は夕食後洗浄剤を使用し清潔保持に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレに迷う事がないよう入口に目印を付けている。排泄記録をつけており、回数やパターンの把握に努めている。失敗のないよう個別に誘導しトイレに排泄する環境をつくっている。	水分量や排泄表をチェックしてパターンを把握し、適切な個別誘導を行っている。トイレでの排泄を習慣化することで入居時におむつを使用していた入居者が布パンツになったり自力歩行ができたなど改善が見られた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を含む物や乳製品を多く摂って頂くよう献立を工夫している。水分もこまめに撮って頂く他、腹筋を動かす体操も毎日行っている。排泄記録から排便がない日が続いた際にはマッサージや下剤服用によるコントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望がある方は配慮し個別に関わりを持てる大切な時間としてゆっくりとした一時を過ごして頂けるようリラックスできる空間づくり、言葉掛けを行っている。拒まれる方へは声掛けを工夫しアプローチを掛けている。	毎日の入浴や季節の菖蒲湯・柚子湯を楽しんだり、気の合った入居者同士で入浴するなど風呂場は「くつろぐ場所」として捉えている。職員との信頼関係づくりにも役立っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠状態、日中の活動量のバランスを見ながらお昼寝の時間を設けたり、気持ちよく休んで頂けるようベッドメーキングをし、室温・照明の管理を行っている。寝付けない時は無理強いせず、ゆっくりお話を伺うことで安心感を持って頂き休んで頂けるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報の一覧表を個別に病院から頂いておりスタッフは各自目を通し把握に努めている。服薬はすべてスタッフが管理しており、手渡し内服するまで見守り対応をしている。症状の変化はすぐにDrに報告し、指示を頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの残存能力を活用し役割をお願いしている。強制はせず楽しみながら手伝って頂けるようスタッフも一緒に行っている。自然な働きかけをすることで意欲を引き出し笑顔になれる瞬間が得られるよう心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買物等、個別で外へ出掛ける機会を設けている。家族にも協力を頂いて職員では対応できない場所（遠方・自宅へ戻る・墓参り）への支援も行えるよう働きかけている。	市の夏祭り、福祉祭りに参加して入居前の友人とおしゃべりした。ドライブで花見、公園に行き子どもと触れ合うなどしている。出たがらない入居者には庭先に誘ったり、ウッドデッキで食事するなど工夫している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望に沿って所持し、使用している。金銭管理を行うにあたり、家族から同意を頂き、購入した物をお小遣い帳に記入し家族にチェックした頂くよう努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ電話を掛ける方もいる。また家族から電話が掛かってくることもあり、家族や友人との関係をこれまで通り築いている方もいる。手紙を家族とやり取りすることが日課の方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るすぎず、暗すぎない照明であり自然の光も差し込み、庭の緑を室内から眺める事ができている。温度は外との差があまりないよう配慮している。季節感を味わえるよう花や折り紙の作品を飾り、季節のメリハリをつけた空間づくりに努めている。	ホームの中で入居者それぞれが、自分の好みの場所を持っており、ウッドデッキや廊下のソファ、小上がりの座敷で思い思いに過ごしている。自然換気やエアコンで居心地良い空間を保っている。廊下の額に収まった夢二の絵が落ち着きをもたらしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の端に椅子を配置したり、ウッドデッキに寛げる場所を設けたり、気分転換できる場所づくりに心掛けている。仲良しの利用者同士居室を行き来することもあり居心地の良い場所を個々が理解し活用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの物、これまで使用していたものを持って来て頂けるよう家族を通しお願いしておりタンスの他、自ら作成したパンフラワーの作品、思い出の手紙等貼り付けて安心できる空間づくりが出来ている方もいる。	居室には昔のメダルや楯、結婚写真、鉢植え、編みかけのマフラーなど、その人らしい部屋づくりがされている。冬は湯たんぽを使い、職員は寝付くまで話を聞くなど安心して過ごせる居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	使い慣れた物の配置は変えず混乱しないよう努めている。暦は日めくりの物を使用したり、トイレは表札をつける他、夜間迷うことのないよう明かりをつける等工夫している。		